

[様式2]

(受検者名) _____ 様

風しん抗体検査結果通知書

(医療機関名) _____

風しん抗体検査結果 (H I 法)

1. 32倍以上

2. 8倍、16倍

3. 8倍未満

※該当する結果に○をつけてください

(H I 法以外) _____ (_____ 法)

※HI 法以外で検査した場合は、測定値と () 内に検査方法を記載してください。

<参 考>	出典：厚生労働省
<u>32倍以上</u>	・・・風しんの感染予防に十分な免疫を保有していると考えられます。 ワクチンの接種は、基本的に必要ありません。
<u>8倍、16倍</u>	・・・過去の感染や予防接種により風しんの免疫はありますが、風しんの感染予防には不十分です。 確実な予防のため、 <u>ワクチンの接種を推奨します。</u>
<u>8倍未満</u>	・・・免疫を保有していないため、 <u>ワクチンの接種を推奨します。</u>

◇風しんワクチン接種について◇

- ① 妊娠している女性及び妊娠している可能性がある女性はワクチン接種を受けることはできません。
- ② 女性の場合、ワクチン接種後は少なくとも2か月間の避妊が必要です。
- ③ ワクチン接種医療機関の一覧は栃木県ホームページに掲載しています。
- ④ 一部市町ではワクチン接種の助成を行っているところがあります。事前に助成の有無及び対象となる医療機関について、お住まいの市町予防接種担当課へお問い合わせ下さい。

風しん予防接種Q&A

出典：国立感染症研究所

Q 風しんの予防接種をうけると風しんにはかからないと考えてよいでしょうか。

A すべての薬が100%の効果をもつとは限らないように、ワクチンの効果も100%とはいえません。これまでの報告を総合すると、風しんワクチンを1回接種した人に免疫ができる割合は95～99%と考えられています。現在は、2回の接種が定期接種として実施されており、より高い効果が得られています。

Q 風しん予防接種の副反応にはどのようなものがありますか。

A 2006年度から定期接種として麻しん風しん混合ワクチンが用いられるようになり、風しんワクチンの接種者数は減少していますが、風しんワクチンは、副反応の少ない非常に安全なワクチンの一つです。しかし、重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー様症状、全身のじんましの報告があります。また、まれに（100万人接種あたり1～3人程度）急性血小板減少性紫斑病が報告されています。

その他の副反応として、発疹、紅斑、掻痒、発熱、リンパ節の腫れ、または関節痛などをみることがあります。成人女性に接種した場合、子供に比して関節痛を訴える頻度が高いといわれています。

Q 成人男性に予防接種を行なう必要はありますか？

A これまで風しん予防接種を受けたことがない場合は、なるべく早く予防接種をうけることをお勧めします。平成23年度の感染症流行予測調査によると、30代から50代前半の男性の5人に1人は風しんの免疫を持っていませんでした。20代の男性は10人に1人は風しんの免疫を持っていませんでした。大人が風しんにかかると、発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、関節痛がひどいことがよくみられます。一週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。また、脳炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの軽視できない合併症をまれにおこすことがあります。

また、男性が風しんにかかると、妊娠中の女性が近くにいた場合、風しんをうつし、その赤ちゃんが先天性風しん症候群となって生まれる可能性があります。

自分と家族、そして周りの人々を風しんとその合併症から守り、生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るためにも、これまで風しんの予防接種を受けたことがない場合は、成人男性でも可能な限り早く接種をうけるようにして下さい。